

軟白ねぎ後作ミニトマト栽培導入への支援

～ ミニトマト導入による収益の確保 ～

(課題番号 13)

- ◆活動年次：令和3～5年度
- ◆対象：JA門別ミニトマト新規栽培農業者（日高町）4戸
(当初予定は3戸であったが、4戸が作付けたため4戸を普及対象とした)
- ◆目標事項：販売金額250万円/10a以上2戸→3戸
- ◆到達度合：販売金額250万円/10a以上3戸達成（100%）

1 課題の背景

関係機関(町・JA・普及セ)の役割と取組 (R3～R4)

日高町の課題

- ・連作の軟白ながねぎに代わる新規作物導入で収益確保
- ・農作業の負担軽減が図れる作物の導入

JA：新規作付け者の勧誘、共同選果の実施、その他支援全般
町：ミニトマトで新規参入予定者を地域おこし協力隊として採用
普及セ：技術習得支援、ミニトマト農業者育成

作付け戸数と面積は増加
R2年0戸
→R4年3戸(65a)
<R4年末の課題>
・新規作付け者の栽培技術の習得
・斑点病対策
・収穫時期の労働集中の解消
・さらなる収益アップ

2 活動の経過

栽培技術習得支援 (対象：4戸)

基本技術の実施を助言

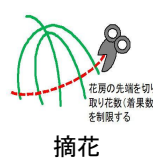
(巡回・技術情報発行)

- ・土壌診断および栄養診断結果を基にした施肥
- ・適期作業(誘引、摘葉)
- ・秋の栽培管理(裂果対策)
- ・病虫害対策

収量・規格改善と省力化の展示ほを設置(1戸) 花数の適正化(40～50個に摘花)に取り組む



摘花なし果房



摘花



花数適正化した果房

斑点病の体系的防除を推進

- ・巡回で現地助言
- ・JAと連携し技術情報を発行(4回)



斑点病多発ほ場(R4年9月)

先進農業者視察で全員のレベルアップを図る

本所地域第一系の協力を得て、大産地(新ひだか町)のベテラン農業者の栽培技術を視察。(農業者4名、研修生2名、JA2名参加)



みんな参加で内容を共有

ミニトマト栽培農業者の育成 (対象：新規参入者1戸)

研修への参加を促進

- ・スマイル・トマト女子会研修会に参加(刈払機メンテナンス、など)
- ・環境モニタリング機器を試用
- ・地域の先輩農業者を視察研修(自作かん水システム、営農計画作成)

基礎知識、新たな技術、営農の考え方等を研修し、一人前の経営主をめざそう!



3 活動の成果

斑点病の体系的防除の実施で、前年より収穫期間が拡大し品質も改善

< C農家の例 >

< R4年 >

収穫期間：8/4～10/11

収穫期後半はヘタに病斑がついた果実が多発生したため、収穫終了。

< R5年 >

収穫期間：8/4～10/24
(14日間延長)

ヘタに病斑がついた果実がほとんどなく、選果が楽になったね。

選果担当者

農業者	斑点病発生状況
Aさん	微
Bさん	微
Cさん (新規参入)	少
Dさん	中

発生程度は遠観で基、多、中、少、極少、無で表現。

花数適正化（40～50個に摘花）の展示会で、収量・規格の改善と省力化を実証

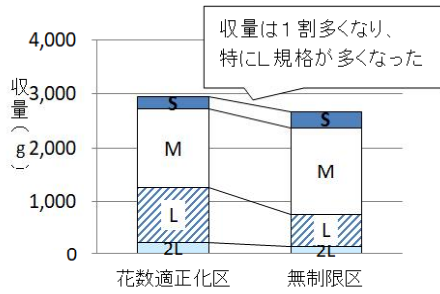


図1 株あたりの収量と規格の比較

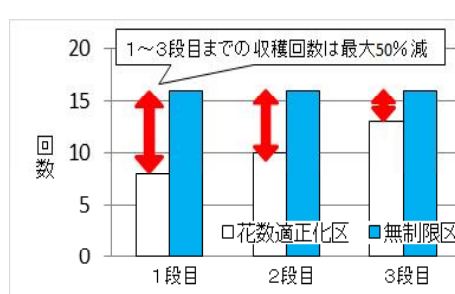


図2 1～3段目までの収穫回数

収益は摘花作業労賃を差し引いてもプラスに

「今年、少し試してみた」農業者も

先進農家視察で目標の栽培方法がイメージできた

次年度は主枝切換栽培技術に挑戦し、後半の収量を確保したい！
(農業者、JA、研修生)



ミニトマト栽培農業者育成の取組には研修生（地域おこし協力隊）も参加し、切磋琢磨中

ミニトマト栽培で就農予定の研修生2名も参加
→活発な意見交流で高め合う
<先輩農業者視察で出された質問>

雇用者の求人方法は？



作業記録の取り方は？



作業計画の作成方法は？



3戸が目標販売額を上回った

農業者	ミニトマト作付年数	作型	仕立て本数	土壌診断の実施	斑点病の体系的防除	通期作業		高単価時期の出荷	目標収量 5,000kg/10a 達成	目標販売金額 250万円達成
						誘引	摘葉			
Aさん	3	(ポット苗)促成 (セル苗直接定植)ハウス抑制	2本	○	○	○	○	○	○	○
Bさん	2	(セル苗直接定植) ハウス夏秋どり	2本	○	○	○	○	○	○	○
Cさん (新規参入)	2	(セル苗直接定植) ハウス夏秋どり	1本	○	○	△	△	△	○	○
Dさん	1	(セル苗直接定植) ハウス夏秋どり	2本	○	△	○	○	△	△	△

○:達成した。できた。△:達成できなかった。できなかった。

目標収量は野菜地図セル(直接定植)ハウス夏秋どり作型 基準収量5,000kg/10aを引用

農業者間に、平均単価で390円/kgの開きがあった。高単価時期（収穫後半）に出荷していれば、さらに収益アップだったのだが…。



4 残された問題点

- 新規作付け農業者の技術習得が不十分であった。
- 高単価時期に出荷を合わせられなかった農業者がいた。

5 今後の対応

- 次年度栽培農業者が増える予定であることから、引き続き新規作付者の栽培技術の習得を支援する。
- 既存農業者（4戸）へは省力・効率的技術の導入（摘花、高単価時期の出荷）で、更に収益の向上を支援する。